
喫茶店と私とお前

三角

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

喫茶店と私とお前

【Nコード】

N6376H

【作者名】

三角

【あらすじ】

この作品は、小説家になろう秘密基地、小説の書き方講座内の、宮座頭数騎様の執筆道場 人物描写の間 2にて、仕神けいた様の描いたイラストを文章に起こす、という企画に基づいたお話です。

僅かに水滴で濡れた、木製のテーブル。

その上に置いてあるグラスが無粋なバイブレーションで震え、氷の割れる冷たく澄んだ音が落ち着いたクラシックの中に凜と響く。

一目惚れして買った淡いピンクの可愛い携帯。チカチカと点滅する見慣れた新着表示は、間違いなくメールのモノだ。

私はだらしなく頬杖をついたまま、ぶるぶると不器用に震え続ける携帯に手を伸ばした。

ここは、行きつけ。明るめの照明と落ち着いたBGM、ちょび髭生やしたマスターがカウンターの向こうに鎮座する、リーズナブルな値段もお気に入りの喫茶店だ。

そして目の前には、気遣いなど無用になって久しい幼馴染みの姿。のほほんとコーヒーを啜るその顔は涼しげで、夏真っ盛り、見るからに暑苦しい窓の外の景色と対照的なのが腹立たしい。

何でこんな奴好きなんだろ。

心中で一人ごち、それでも足らなかつたので、腹立ち紛れにお行儀悪くグラスから飛び出ているストローに噛みついた。お茶してるんだぞ、少しは動揺しやがれー、と動きに合わせて後ろ頭で括った尻尾が揺れ、首筋をくすぐる。

やけに冷たく感じる自慢の亜麻色ヘアーに、少し長居し過ぎてるかな、と小さくため息を吐いた。

ひよひよとストローを上下させる度に飛び散る水滴などには目もくれず、手首の返しだけで携帯のフリップを跳ね上げる。

きつと今、私は凄くつまらなさそうな顔をしているんだろうな。

好きな奴と一緒に居るのに。いやいや、一緒にいるからこそ？

そんなことをぼんやりと考えながら、どうせまた下んないメールだろう、と適当にセンターキーを指先で連打した。

待ち受け、受信ボックス、送信者の名前。

見るともなしに右から左、メールの内容を開く為に何度もキーを押し込んだ後で、見覚えのありすぎる名前に気がつく。

ぷりーずうえいと、そんな感じで処理待ち表示で真っ白になる携帯を思わず覗きこんで。

「え、何で目の前に居るのにメールしてくる訳？ アンタば、か…

…

そして、思わず息を飲む。

正しく、驚きに目を睜った。

「っ

「いかが？」

扱いがぞんざいなせいで、小さな傷が幾つも付いてしまったディスプレイをまじまじと凝視する。

ぼとり、と啜くわえていたストローが唇からこぼれ落ちて、てんてんてん、とテーブルに転がった。

ああ、制服にアイステイーが跳ねてたら染み抜きが大変だ。現実逃避する思考と裏腹に、私の視線はたった二文字の言葉から動かさない。

それは、さ行とか行の音で構成される言葉だ。

「それ、俺の気持ちね」

「お、っ」

「お？ 何、動物の真似？ 斬新だね」

「おま、アン、な、このっ………！」

「まあ落ち着けよ」

「お、ちついてられるかあああああ！ 馬鹿！ もう馬鹿！ ど、どつきりとか言ったら絶対許してやらないかね！？ 朝起こして

もやんないし、お弁当も夕ご飯も作ってもやんにゃい……、噛んだっ、もう馬鹿あ！」

予想外の角度から放たれた魔法の言葉。

がさつで口の悪い私を、まるで小説の中の純な乙女みたいに胸高鳴らせる甘い言葉。

たった一言、それだけの為に対面してメールで送って来た、目の前のこいつのシンプルにして偉大な言葉。

暴走機関車の動力炉みたいに、止まらない胸の十六ビートと顔の火照り。

恥ずかしくて死んでしまいそうな私に取って唯一救いなのは、目の前の不健康な男の頬が、美味しそうな林檎の赤色に染まっていること？

ふと、視界の隅で、ちょび髭の似合う渋いマスターが悪戯っぽくニヤつきながら手を叩いているのが見えた。

すっかり忘れ去られたアイスティー。二人の間で、少しだけ残っていた小さな氷がからん、と涼やかな音を立てて割れ、沈む。

窓の外、日差しはまだまだ高く、暑い。

二人の夏は　　まだこれからだ。

(後書き)

この作品は、つい調子に乗って書いてしまったら長くなりすぎたという例の……例の、ええと、文のメタボ化？
とにかくそんな感じで出来て居ます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6376h/>

喫茶店と私とお前

2010年12月17日02時58分発行